

竜王北小学校 学校関係者評価書

令和3年2月10日（水）

（竜王北小学校）学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和3年2月10日（水）午後4時～

会 場：竜王北小学校会議室

参加者：（学校関係者評価委員）

奥石正寛 小川啓介 小宮山千雪 田中奈美
（学校側）

廣瀬昇 増坪広夫

横内裕 重田綾子 長沼京子 深澤美佳

I 学校側から提案された内容

（1）学習指導の充実と向上に努める。【知育】

○わかる授業の実践（基礎基本の定着を図る授業を行っている）

- ・肯定率が100%であり、担任が教材や児童の実態に応じて、指導法を工夫している。児童アンケートの「授業が楽しいですか」（93%）「先生はよく勉強を教えてくださいませんか」（99%）と高いポイントを維持しており、授業力向上に努めている成果が表れている。しかしながら、「授業が楽しくない」「授業がわからない」と感じている児童がいることを真摯に捉え、更なる改善に取り組む。
- ・「質問や意見が出る授業」を実施していくために、自信を持って発言しあえる学級づくりや授業規律の構築を進めていきたい。

○宿題と家庭学習の推進（宿題や家庭学習に対する指導を行っている）

- ・学習した内容の復習を中心に自主学習（自学）に取り組ませているが、児童アンケートの「平日の家庭学習の時間（学年の目標時間の達成）」81%は昨年より4ポイント下降したが、「あまりしていない」「していない」という回答が19%ほどあるので、更に家庭との連携を図り個別指導に努めたい。

○個に応じたきめ細かな指導（個に配慮した授業を行っている）

- ・全教員がきめ細かな指導によって学習意欲を高めていると回答しており、不適応支援担当や甲斐市からの支援員を活用し、TT指導・補充学習・取り出し指導等に努めている。今後も、繰り返し指導、ドリル学習、その子にあった課題の与え方、支援員の効果的な活用、ユニバーサルデザインを活用した授業等を進めていくことによって、基礎的基本的な知識・技能の確実な定着を図り、わかる喜びをもたせる指導を行っていきたい。

○教育環境の整備

- ・今年度より校務支援システム（グループウェア）が導入され、教職員の多忙化改善への一助となるような取り組みを行っている。来年度から導入される「一人一台コンピューター」の運用など、ICT機器の導入や新しい教育スタイルなどに対応できるように、今後も教職員の資質向上のための研修は継続していく。また、大容量通信ネットワークを使ったインターネットやアプリの活用などから、個人情報を含めた情報管理についても徹底していきたい。

○地域との連携した教育活動

- ・コロナ禍の中、自粛活動が求められ、地域との連携・協働といったことが今年度はあまり活発に行うことができなかった。プログラミング教育や外国語活動など新しい教育内容について、地域の人材や専門的な分野による出前授業などを積極的に取り入れていきたい。

(2) 心の教育の充実に努める。【徳育】

○生き方教育（キャリア教育・進路指導等）

- ・A肯定率が昨年より10ポイント下降し、37.9%と最も低い数値となった。今年度はコロナ禍によって、校外学習や外部講師の招聘などが難しく予定していた計画が実施できなかったことも原因の一つと考えられる。今後は「キャリアパスポート」を有効に活用しながらキャリア教育を推進し、児童が将来の見通しを持ち、地域を支える人材となるよう積極的な取組を行っていく。

○声かけ、あいさつ運動

- ・児童会活動であいさつ運動の取り組みを続けている。毎朝玄関前には、当番のクラスが出て登校してくる児童を迎え、元気なあいさつが響いている。児童アンケート「地域の人にあいさつをしていますか」の肯定率は85%で昨年より5ポイント下降した。コロナ禍の中でよくあいさつをしている場面を見かけるが、反面、地域の方や保護者に自分から進んであいさつができない場面も見受けられた。

○感染症予防（命の教育）

- ・感染症予防の取組では、職員のAB肯定率は100%、保護者は90%であったことから、今後も、命を守る感染症対策の周知と予防対策を徹底していきたい。

(3) 健康・安全教育と体力の向上に努める。【体育】

○体育活動の充実（体育の広場は効果的に実施され、有益である）

- ・職員の肯定率が93%であったことから、年間を通してラジオ体操や縦割り遊び、「やまなしチャンピオン」への参加等による体力づくりを行っている。また、クラス単位での長縄大会は、クラス目標に取り組む過程で、体力づくりとともに仲間づくりにもつながる活動になっている。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- 自己評価、児童・保護者アンケートの結果から、本校の教育活動が全体的には望ましい方向に進んでいると言える。今後は、ABの肯定的な評価を伸ばすことはもとより、CDの否定的な評価を減らしていく努力も大切である。保護者のCやDの回答を減らすためにも、学校からの情報発信が大切である。
- 教職員は日々の教育活動に向けて地道な教材研究や準備を行い、授業参観の様子から丁寧な指導が見て取れ、児童もよい環境に恵まれている。学校の努力を保護者によりわかりやすく理解してもらえるように、学校ホームページやPTA新聞等で情報発信を行って、竜王北小学校の教育活動を周囲にも伝えていきたい。
- コロナ禍において、学校行事の在り方について見直しが図られた。修学旅行の延期や行事の縮小や中止が多かったが、子ども達の気持ちを大事にしながら、よい方法はないかと学校が模索していただいている姿勢に感謝したい。延期や自粛で気持ちが沈み込む子供たちのことを考え、花火を上げることや今できる活動を工夫して実施していただいたことは大変ありがたかった。
- 地域を知ることで、「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」につながる。地域でのイベントへの積極的な参加をお願いしたい。子どもたちは、とても元気なように見える。地域の民生委員たちも、様々な方面で学校に協力できるので、ぜひ声をかけてもらい、ともに子どもを育てていきたい。
- 危機管理については、膨大な資料である「危機管理マニュアル」やそのダイジェスト版を作成し、いつでも見られるようにすることで職員の危機管理意識を高めていくような工夫を行っている。今後は大規模災害を視野に入れた避難所運営についても周知や検討が必要である。

※特記事項

特になし

記載責任者（竜王北小学校 学校関係者評価委員） 氏名：横内裕